

公益社団法人 私立大学情報教育協会  
サイバーキャンパスコンソーシアム  
平成 25 年度 第 2 回生物学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時 平成 26 年 2 月 10 日 (木) 12:00~14:00  
場 所 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局会議室

II. 出席者 伊藤委員、須田委員、佐野委員 (事務局 井端、森下、平田)

I. 検討事項

今回は、教育改善モデルへのアンケートで質問のあった本モデルで対象としている教育レベルについて検討した後、モデル実現に向けた課題や進め方について検討することにした。

1. 教育改善モデルの修正

教育改善モデルへのアンケートのうち、本モデルで対象としている教育レベルがわからないとの意見について、どのように委員会として対応すべきか検討した。その結果、「第 1 節生物学教育における学士力の考察」の本文「そこで、生物学教育における学士力の到達目標として・・・」を「そこで、生物学教育における教養から専門基礎レベルの学士力の到達目標として・・・」に修正し、モデルは教養と専門基礎レベルを対象としていることを明示することにした。

2. 参照基準との比較

教育改善モデルの内容に欠けている点はないかどうか確認するため、日本学術会議の「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 生物学分野」と本モデルを比較したところ、以下の点から特に内容に不足はないことを確認した。

- ① 参照基準の方が全体的にレベルがやや高くなっているが、日本の大学教育の現状に照らして本モデルは妥当なレベルである。
- ② 参照基準の 1 ページの「(1) 検討の背景」において、「生物学には、環境保全などにかかわる理念、指針、方策などを提案する『政策科学』としての役割も期待されている。」と述べられており、これは本モデルの到達目標 3 「生物学の視点から生物とそれをとり巻く環境に関連する問題について考えることができる。」に相当する内容であり、本モデルは大学で必要な教育内容を網羅している。

2. 本委員会の今後の検討課題について

教育改善モデルを踏まえて今後の本委員会での課題について検討した結果、専門科目と

の関連の中で、生物学の視点からそれを取り巻く環境に関する問題について考えさせることが重要で、このような教育をアクティブ・ラーニングとして実現するには、他分野の教員との連携、さらには大学間連携による授業の仕組みが欠かせないことを確認した。

そこで、まずは他分野との教員との連携や大学連携をテーマに対話集会で提案し、意見交換を通じて、具体的な課題を整理し、研究を進めることにした。

また、可能であれば学会などのつながりのある生物学系の教員間で実験的に連携授業を始めることも検討してみることにした。

なお、対話集会は以下のイメージで開催することにし、次回委員会で具体的に検討することにした。

- ・参加対象者：サイバーFD研究者
- ・ねらい：アクティブ・ラーニングを考える
- ・進め方：授業事例の紹介の後、ディスカッションを行う。
- ・開催時期：8月下旬
- 開催場所：委員の所属大学（金沢工業大学虎ノ門キャンパスを予定）

### 3. 次回委員会までの課題

アクティブ・ラーニングを考える対話集会の内容を各委員がイメージしておくことにした。

### 4. 次回委員会

今回は4月5日（土）に開催し、対話集会のプログラム作りや進め方を検討する。